

第14回 貧困と野宿を考える

生田 武志（野宿者ネットワーク代表）

2010年3月27日



貧困と野宿を考える

早川 皆さん今晚は。時間になりましたので、ただいまより第14回名田庄多聞の会の開催いたします。今夜は、ここにありますように、「貧困と野宿を考える」と題して、野宿者ネットワーク代表、及び「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」共同代表の生田武志さんよりお話を伺います。生田さんに来ていただくことが決まってから知ったことですが、前回第13回の講師の小柳さんとはお知り合いの仲だということです。それでは生田さん、よろしくお願いいたします。

生田 皆様今晚は。今から、ビデオをみながら1時間半ほどお話ししたいと思います。長い時間ですが、どうかよろしくお願いいたします。自己紹介をします。今は、貧困問題とか野宿の問題に関わって活動しています。

釜ヶ崎、日雇い労働

僕がこういう問題に関わりだしたのは、今から24年前でした。当時、まだ学生だったのですが、テレビを見ていたら、たまたま、釜ヶ崎のことをやっていました。釜ヶ崎は、前回に來られた小柳さんからも聞かれましたが、「あいりん地区」とも言います。大阪市の南部にあつて、環状線では新今宮駅、地下鉄では動物園前近くの、0.62平方キロの地域です。ぐるっと回っても30分くらいで、そんなに広いところでは

ありません。そこには当時から2万人の日雇い労働者がいました。当時も今も、釜ヶ崎は日本で最大の人口密度の高いところですよ。

日雇い労働がどういうものであるかというのは、今、日雇い派遣が広がったので、皆さんも見当が付くかと思えます。日雇い労働者は朝の4時、5時に起きて、「あいりん総合センター」という大きな建物に集まります。そこには、労働者を捕まえて現場に送り届ける人材派遣業者がいっぱいいて、その車にはこんなビラが張つてあります(ビラの大きな写真を見せる)。人材派遣業者を手配師といいますが、このビラは業者の名前が「ダイケン」、作業現場は神戸、仕事は一般土方、8時から5時までの仕事で、1日の単価が1万円ですよ、というわけです。日雇い労働者は、このようなプラカードがずらつと並んでいるのを見て、自分が行きたい仕事を見つけると、手配師に、「わし、仕事したいんやけれど」と言うわけです。すると、手配師は、労働者をじつと見て、「あんたは駄目」だとか、「あんたは、車に乗り」とか言つて、選別します。どういう人が車に乗れるかというと、若くて元気な人が乗れるのです。なので50歳か60歳なら、はねられてしまう。身体が弱い人もはねられてしまう。あと、手配師が個人的に嫌いな人もはねられてしまう。たとえば、労働運動をやっている人など、僕の知り合いもはねられていました。運よく仕事につけた人は、たとえば、神戸にいつて、1日建築・土木の仕事をして、5時になったら1万円もらつて帰ってくる。

こういう仕事の形態なので、今日仕事があるかどうかは、実際に探してみないと分かりません。明日仕事があるかどうかも分からない。そ

の意味では、究極の不安定な仕事です。不安定雇用と言いますが、日雇いというのはその日だけ雇われる仕事ですから、「究極の不安定雇用」です。

何故、日雇いで仕事があるか

何故こんな日雇いで仕事があるかと言うと、建築や土木の仕事では、その日ごとに使う人の数が違うのです。たとえば、晴れていれば仕事があるけれど、雨がふれば仕事がなくなっちゃう。実際、釜ヶ崎では、6月、7月の梅雨の時期には、いくら仕事を探しに行っても仕事がありません。仕事がなくなれば収入がなくなり、収入がなくなると家賃が払えなくなつて、野宿になる。20数年前から、仕事を失った労働者が続々と野宿者になるのが繰り返されています。そして、景気が悪くなると真つ先に首を切られるのが日雇い労働者です。それから、空港とか大きなビルを作るときは仕事があるけれど、それが終わると仕事がなくなくなる。こういうふうには、仕事があつたりなかつたりするとき、それを自分のところの正社員だけでまかなうのがしんどい、それで、建築や土木の会社では日雇いを使おうと考えました。つまり、仕事の多い時には釜ヶ崎に車をいっぱいつけて労働者を集める。仕事が少ないときには車をつけない。「今日は仕事がありません、好きにしなさい」というわけです。

というわけで、何らかの事情で仕事がなくなると、労働者はいくら

朝早くから仕事を探しに行っても仕事がない。あと、過酷な重労働なので、怪我などしたら仕事にいけなくなります。失業保険とかいろんな社会保険がほとんど整備されていないので、怪我をしたら一巻の終わりになる。不安定な仕事の人が失業になりやすくて、失業すれば貧困になつて、野宿になるというのが、一般的なパターンでした。

釜ヶ崎と関わる

話を戻すと、僕が24年前に大学生のときに、釜ヶ崎の夜回りをしていたのです。今でも、釜ヶ崎の中で400人か500人の人が野宿しています。中には、毛布も何もなしに寝ている人がけっこういるのです。20年前に、テレビを見てみると、夜回り団体が夜回りをやって、野宿している一人ひとりに話しかけていました。中には70歳を超えたような人とか、あと車椅子の人とか、障害を持った人がけっこう野宿していました。そういう人に声をかけて、施設に来てもらつて、泊まってもらつていました。その次の日に生活相談をして、病院に行くしかないという人には、一緒について行って、病院に行つて、入院とか通院の手続きをしました。この人、もう65歳を越えているし、働くの無理だなあとと思う人については、生活保護を受けてアパートに入つて生活費をもらうようにしたりしました。

そのとき、学生の僕は、日本にもこんなところがあるのかとびっくりしました。僕は、千葉県で生まれて、岡山県で育つて、大学は京都に行

ったんですが、自分の周りで野宿している人なんか、見たこともなかった。だから、本当に、びっくりしました。京都から釜ヶ崎までは1時間半くらいで行けます。そんな距離なら行ってみようと思って、行って夜回りなどを始めたのが一番最初です。その頃は、僕も、この豊かな日本でわざわざ野宿などしているのは、僕らとは考え方がちよつと違つた変わった人なんだろうとなんとなく思っていたのですが、実際に夜回りをやって、いろんな野宿をしている人と話してみると、思っていたよりイメージが全然違つていたのです。

アルミ缶集めとダンボール集め

当時も今も、野宿をやっている人の多くは、アルミ缶とかダンボールを集めて生活をしています。当時はアルミ缶1個1円だったので、アルミ缶を袋に詰め込んで、それを背負つて、それを業者さんに売つてお金をもらう。アルミ缶1個1円なので、千個集めてやつと千円なのです。話しを聞いていると、大体、8時間か10時間、あつちこつち自転車で走り回つて集める。1個ずつ拾つて歩くので、1000個集めるのは至難の業です。時給でいうと90円か100円になる。とんでもない低賃金の重労働なのです。けれど、多くの野宿者がこういったアルミ缶集めで生活していました。月収でいうと、3万円くらいです。

ちなみに、今は、アルミ缶1個0.7円になつていたので、条件はもつと悪くなつています。中には、70歳を超えたような人がいて、アルミ缶

集めで生活しています。夜回りで、僕が会つた人は76歳だったので、僕らが声をかけるわけです。「おじさん、そんな生活はしんどいんじゃないですか。生活保護といって、アパートに入れて、お金もらえて、生活できるから、僕らと一緒に役所に行きませんか」と。そうすると、乗つて来る人もいるのだけれど、けつこう多くの人が、「いや、いいです」と、断るのです。何で断るかというと、「私はアルミ缶集めで自力で生きてきた。人様の世話にはなりたくない」。あと、「お上の世話にはなりたくない」という人もいます。僕が声をかけた76歳の人そう言つて断るんですね。年齢を考えたら、「終生野宿」と言っているように聞こえました。

そんな人が結構多くて、もちろん、野宿者100人いたら100人違つるので、人それぞれなんだけれど、全体としては、世の中を器用に渡つていけない、正直な人が、野宿をやっているんじゃないかという気がしてきました。当時結構はまつて活動して、大学の2年間は京都にいるより釜ヶ崎にいるほうが多かつたくらいです。

大学卒業するときはどうしようかと思つたんですが、不登校の子に関心があつたので、そつちのほうに就職しようとも思いました。でも、結果的には釜ヶ崎に残つて、自分で日雇い労働をしながら、日雇い労働運動とか、野宿者の支援活動などを続けてきました。そうして、24年間そんなことをやってきました。今は、釜ヶ崎の日雇い労働がほとんどなくなつてしまつて、いくら探しても仕事がないので、肉体労働はほとんどしてなくて、地元の児童館でアルバイトをしています。

野宿者の増加

20年以上経ってどうなったかというところ、まず、日本中で野宿者がむちやくちや増えてしまいました。僕が夜回りを始めたころには、日本中で野宿をやっていた人は全部で千人くらいで、その半分くらいが釜ヶ崎で、東京の山谷に数100人くらいだったと思います。今では、2万人くらいが日本全体で野宿しています。20倍くらい増えてしまった。あともう一つは、従来は、野宿者は日雇い労働者の街にしかいなかったのです。さっき言ったように、日雇いという不安定な仕事の人が失業しやすくて、野宿者になる。パターンだったのですが、それが今、日本中に広がってしまった。日本中に野宿する人が広がった。

今、日本の全て労働者の3分の1が非正規労働者です。これは、ある意味では、日本の3分の1が釜ヶ崎になったようなものです。その結果として、当然、あつちこちに野宿者が増えた。10年前からは、北海道から沖縄まで野宿者が広がった。全ての都道府県で野宿している人がいる状態です。

北海道でも野宿している人がいるのです。札幌の夜回りに行ったことがあります。今年の2月6日、ちょうど雪祭りの時期だったので、夜回りをさせてもらいました。すごい寒い日で、一番気温の下がる明け方にはマイナス12度になります。まあ、冷凍庫の中にいるみたいなものです。そんなに寒かったら人間が野宿なんかできるわけがないと思うのですが、実際に夜回りで札幌駅の周りを回ると、駅の周りだけで

70人くらい野宿していました。北海道で野宿している人の特長は、ダンボールハウスとかテントを作らずに、床の上にダンボールを敷いて、毛布に包まれただけで寝ていることです。

1枚だけ写真を撮りましたが、これは札幌駅の前の自動販売機の前で、床の上にダンボールを敷いて、身体に銀色の断熱材を巻いて寝ています。このころが、マイナス12度くらいでした。何人かとお話したのですが、「寝たら死ぬ」と言うのです、当たり前だけれど。「どんな風にして夜を過ごしているのですか」と聞いたたら、札幌は大会なのでドンキホーテとかがあるので（僕も見に行つたのですが、そこは暑いくらい暖房が効いていて、朝の5時までやっている）、「その中をひたすら歩き回っている。疲れるけれど凍えて死ぬことはない」と。5時半になるとバスセンターが開くのです。北海道の施設は全部暖房がかかりますから、そこで横になったり、ベンチに座ったりして、何とか過ごすと言っていました。ただ、何しろ、北海道なので、洗濯物を公園にかけて干したりすると朝にはガチガチに凍っていると、公園の水は出ないとか、お弁当をもらっても朝にはアイスクリーム状態になっているとか、大変そうでした。この間、沖縄にも行つたのですが、沖縄でも野宿している人がいました。不安定雇用から失業し野宿するというパターンが広がっている状態だと思います。

若年層の貧困と野宿

今、僕は、主に「野宿者ネットワーク」という団体で、夜回りなどのいろんな活動をしています。最近の特徴の一つとして、若い人の野宿が増えました。僕が持っている団体の携帯電話に、20代、30代の人から直で相談が入ることが増えてきました。これは以前はなかったことです。どんな相談かというと、たとえば、「私、20歳なんですけど、派遣切りにあつて仕事がなくなつて、今日マンションを出ました。今日から泊まる所がないのですが、何とかありませんか」とか、「私、29歳の女性なんですけど、大学を出てから研究所で研究員として研究していました。予算カットで首になりました。それ以降は、コンビニでバイトをしていたのですが、腰を悪くしてその仕事もできなくなりました。昔の友達に家に転がり込んで食べさせてもらっていましたけど、それも1年たつたのもう限界です。なんとかありませんか」。あるいは、「今、ネットカフェを転々としています。昔の知り合いが近くでオニギリ屋をやっているの、ときどきオニギリを食べさせてもらっています。もういくらなんでも限界です。なんとかありませんか」。

そういう相談が来ると、近くときは、僕が直接出向いて、一自転車に乗つて一話を聞くのです。若い人のときは、「とりあえず、実家に帰るといふ選択肢はありませんか」と一応聞きます。まあ、帰れないから相談しているのに決まっているのですが、僕も事情を聞きたいのでわざと聞くのです。するといろんな答えがあつて、たとえば、「私の家は

母子家庭なのですが、今私のほかに4人子供がいて、しかも生活保護を受けています」。それでは帰れないと思います。それとか、「私の両親自身が生活に困つていて、両親が知り合いの倉庫に住まわせてもらっている状態です」。そりゃ無理だと思ふ。それから、「私の父親は非常に手癖が悪く、昔、私の財布から金を抜いて警察沙汰になりました」。そういう話もあります。また、「もともと母子家庭だったのけれど、お母さんが再婚して、私と義理の父親の関係が非常に悪く、会えば喧嘩の状態なのでとても帰れません」、と言う人もいました。

つまり、今、実家に帰れることができない若者がぞくぞく野宿者になつているのが現状です。基本的には、若者は貧困です。フリーターの平均年収が106万円というデータがあります。そもそも24歳以下の若者の半分以上が非正規労働者です。だから、もつと多くの若者が野宿になつてもおかしくない。でも、ほとんどの若者がなぜ野宿になつていないかというと、実家に住んでいるか、あるいは、親から経済的な支援があるからです。たとえば、実家に住んでいる限り、怪我をしようが、病気がしようが、失業しようが、とりあえず野宿になることはありません。だけど、おそらく、親は子よりは早く亡くなりますから、そのときどうなるのだろうか、考えることはありません。

皆さんに配布した資料の2枚目の裏を見てください。この左側に折れ線グラフと棒グラフがあります。上が「親と同居の壮年未婚者（35歳から44歳）数の推移」で、下のグラフが「親と同居の壮年未婚者（35歳から44歳）の完全失業率の推移」。1980年には、こういう人は

40万人しかいませんでした。今ではうなぎ上りに増えて、2008年で260万人、今は多分300万人を越えているのでないかと思えます。なぜ、こういう人が親と同居しているかという点、下のグラフを見るとある程度分かります。このグラフの中で、下の点線は35歳から44歳の完全失業率、上の実線は、そのうち親と同居している未婚者の完全失業率です。つまり、親と同居している人は、失業しているゆえに同居していることが分かります。親は年金世代ですが、おそらく70歳代だと思うのですが、この人たちが亡くなったときに、この子たちはどうなっちゃうのだろうか、考えるところです。

最近のニュースで、70歳くらいのお母さんと40歳くらいの無職の息子が2人で住んでいて、お母さんが亡くなったのだけれど、お母さんの年金がなくなると息子は生活できなくなるので、お母さんを庭に埋めて生きている状態にしていた、というのがありました。布団に寝かしたまま、役所に届けていなかったという事件もありました。将来的にはこういった事件がこれからどんどん増えていくのではないかと、危惧しています。今後10年以降に、この世代の野宿の問題が本格化するのでないかと思えます。

全野宿者の7%が女性野宿者

この10年の野宿問題のもう一つの変化は、女性の野宿です。

僕が夜回りを始めたころは、女性の野宿者はほとんどいませんでした。

た。特定のおばあちゃんがあそこで寝ているよ、というのはありました。今は、明らかに女性の野宿が増えていて、全野宿者の7%が女性野宿者というデータがあります。100人野宿していたら7人は女性です。女性の野宿者が増えた原因の一つは、これは男性と全く同じなのですが、失業です。これは、女性の就業形態の変化があったからだと思います。一昔前みたいに、専業主婦がパートをするのが一般的な時代には、パートを首になったからといって失業することはなかったのですが、単身女性がフルタイムで仕事をしている状態が増えてくると、男性と同様、失業から貧困、そして野宿というパターンが増えました。

もうひとつ女性が野宿になる原因があるのですが、何だと思えます（会場の人に聞いて回る）

「結婚しないから?」、「離婚?」、……

DV(家庭内暴力)です。夫の暴力です。夫の、肉体的、精神的暴力を、我慢我慢我慢我慢我慢しているのだけれど、最後は飛び出す。自分の実家とか友達の家に行ければいいのですが、そうだと夫に連れ戻される可能性があるのです。パターンとしては、お金を持てるだけ持って、子どもの手を引いて逃げ出します。最初はホテルに泊まって、お金がなくなつてくると、24時間レストランなどに子供と一緒に座っていて、いよいよお金がなくなると、親子でベンチに座っていて、最後に野宿になります。夜回りをやっている親子の野宿にたまに会うことがあります。30、40代のお母さんと息子とかに。そういう時は、行政の相談所とか民間のDVセンターなどを紹介して、なんとかします。この場合、親

と子がしているわけです。僕が直接、間接知っているだけで、ここ数年で、10人くらいの子供が野宿していますから、日本全国で結構の数の子供が野宿しているのでないかと思えます。

野宿者襲撃

僕らは、毎週土曜日に、7時半から大阪の難波とか心齋橋とかで繁華街を夜回りしています。

いろんな問題に出会いますが、一番頭の痛い問題は襲撃です。あまり報道されてはいませんが、野宿者はしょっちゅう襲われているのです。殴る蹴るから始まって、石を投げつけられるとか、打ち上げ花火がダンボールハウスに打ち込まれるとか、生卵をぶつけられたとか、消火器をプシューという状態でダンボールハウスの中に放り込まれたとか。僕が聞いた中で一番ひどかったのは、寝ていたら突然目玉をナイフでブスと刺された。その人は、周りで野宿をやっていた人が救急車を呼んで何時間もおかる大手術をしたということでした。なんとか目玉は助かったのですが、その人はほとんど見えなくなりました。その人が、僕に「なんで、こんなことをやられるのか、覚えがないですよ」と言っていました。襲撃は、結構、いつぱい起こっていて、夜回りを1回やったら何らかの事件を聞くことが多いです。

襲撃にはいくつの特徴があります。まず、襲うのは、ほとんどが10代の少年グループです。大人もやりますし、女の子もやるのですが、

現場の感覚でいうと、95%は中高生の少年グループです。単独でやることは、まずありません。もう一つの特徴は、夏休みに集中することです。これは、現場では完全に常識になっていて、夜回りを7月にやっている、野宿している人が、「そろそろ夏休みやな、そろそろ気をつけんといかん」と言っている有様です。

皆さんに配ったプリントの1枚目の裏に、例が書いてあります。2000年と2001年と2002年の3つに分けてありますが、これは僕らが夜回りをやったときに実際にあった、非常にひどい事件だけ集めてあります。

夏休みの襲撃事件

(配布したプリントを読みながら説明)

“2000年7月22日

午前4時ごろ、高校生たち4人の若者が、天王寺駅前商店街で野宿していた67歳の小林俊春さんを襲撃、暴行し、その結果、小林さんは内臓破裂によって死亡した。小林さんは釜ヶ崎で日雇労働者として仕事をしていたが、不況と高齢との影響を受けて野宿に追い込まれ、1ヶ月ほど前からその場で段ボールハウスで野宿していた。襲撃した4人の若者は、2000年はじめから「ホームレスは臭くて汚く社会の役に立たない存在」、「格闘技ゲームの技を試し、日頃の憂さをはらしたかった」と、「ごじき狩り」と称して野宿者への襲撃を繰り返していた。彼ら

は、「スリルがある」、「憂さが晴れる」と集団化し、「かかと落とし」や「回しげり」などのゲームの技を試していたという。他の少年9人も、その年の1月から約半年間に20数件、野宿者襲撃を重ねていたとされている。

彼らは事件当夜も「狩りにいこう」、「ノックアウトするまでやろう」と誘い合い、コンビニで襲撃目的の花火を買い、酒で勢いをつけて6件の襲撃事件を起こしていた。天王寺の襲撃の1時間前には、同じ区内の公園で71才の野宿者のテントに爆竹を投げ込み、驚いてテントを出たところに暴行を加え、さらにビニールひもで首を絞めた。また、他の野宿者から数千円の現金まで奪い取っていた。“

これは高校生グループが、67歳の人を殴る蹴るで、内臓破裂で殺してしまったという事件です。さすがに、大きく報道されました。僕らの夜回りしている区域だったので、すぐ現場に行つたのです。もちろん亡くなつた方はもういないのですが、祭壇を作つて、お花や線香を供えてお祈りしました。以前にもいろんな事件が起つていたので、報道されていませんでしたので、マスコミもいっぱい来ていたので、そのことを伝えて報道してもらいました。この高校生グループがどうなったのかというのは、よく分かりません。少年法で、公開されませんでしたから。ただ、有罪になつたのは間違いないでしょうね。

この事件の7月22日は、1学期の終業式の日です。実質的に夏休みが始まるその日の朝に、この事件が起つた。

次の年にも同じような事件が起つた。これは、個人的には印象深い

事件です。

“2001年7月19日

朝4時頃、日本橋の路上で野宿者への放火。

本人の話。「アルミ缶を集めている。仰向けに寝ていて、気づいたら股が火に包まれて燃えていた。「ヒヤハハ」という高い笑い声が聞こえた。とにかく燃えているズボンとパンツを脱ぎ捨てた」。担当医師によると、陰部、両下肢の火傷、全身の10%。大体2度の火傷だが、10%のうち2%（手のひら二枚分ほどの範囲）は3度、つまり重傷。“

これは日本橋でんたタウンですが、アルミ缶を集めている人がいて、疲れて寝ていたのです。朝の4時ごろ、気が付いたら下半身が燃え上がつていた。びっくり仰天して、火を消そうとしたのですが、消えない。ガソリンをぶつ掛けられて火を付けられているから、ちよつとやそつとは消えないです。しばらくのた打ち回っていたのだけれど、思いついて、パンツとズボンを両方脱ぎ捨てた。油は衣類に付いているので、とりあえず身体から火は消えた。周りで野宿している人が、救急車と消防車を呼んで、すぐに病院に運ばれた。話を聞いて、僕もすぐ、ご本人に会いに行つて、お話を聞きました。さすがに、それまで、殴る蹴るとか、エアガンで打ちまくるとかは、しよちゆう聞いていたのですが、寝ているところにガソリンをまいて火をつけるなんていうのは、聞いたことなかったので、びっくり仰天しました。犯人はまだ捕まっていませんから、同じことをやりかねません。ビラを何百枚か刷つて、野宿やつている人に、「こんな事件が起つているよ、犯人はまだつかまつていないから気をつけよ

う」と、まきました。そのビラをまいたのが、土曜日の夜です。その8時間後、つまり、日曜日の早朝にもっとひどいのが起こりました。

“7月29日早朝

日本橋で野宿者への放火。リヤカーで寝ているところへ全身にガソリン類をかけて火をつけたらしい。現場近くで野宿している人たちに聞いたところ、朝6時頃、「ああー」というすごい声でびっくりして外へ出てみると、火のついた状態でSさんが走ってきた。あわててみんな水をぶっかけたり布団でくるんだりして火を止めた。

担当の医師によると、全身35%の火傷、18%は3度の火傷、救命でさるかどうかというところ。野宿者ネットワークの夜回りでは、同場所付近で、これに関連するらしい話を複数の野宿者から聞いていた。17日前後、明け方に10ぐらいの若い2人組が白い乗用車で乗りつけてくる。空き缶に油を入れ、花火を発火装置にして遊んでいる。寝ている野宿者のダンボールに向けて花火の火を向ける、など。“

要するに、寝ているところに、全身にガソリンをぶっ掛けて火をつけたらしい。これは、読売新聞の地方版のちっちゃな記事になって、そこに現場の住所があったので、これは僕が夜回りをしているところと分かったので、すぐにお見舞いに行ってきました。事件の2日目くらいにお見舞いに行ったのですが、もちろん、まだ集中治療室みたいなどころに入っていて、話を聞くことはできなかったのだけれど、見たら、本当に体中焼けていました。顔も胸も足も焼けているのです。それを見て、これは、犯人は遊び半分ではなくて、殺す気でやっているなと思いました。

皆さんご存知のように、全身の皮膚の3分の1が焼けると、人間は死にいたりします。この人は、35%焼けたので、とても危なかったのだけれど、手術を何度も繰り返してなんとか助かりました。どういう手術かと言うと、我々も大火傷をすると同じような手術をするらしいのですが、人間のお尻の皮膚は再生しやすいらしくて、自分のお尻の皮膚を薄くはがして火傷したところに張る。切って張る、切って張るという手術を何度も繰り返して治療し、なんとか助かりました。僕たち、ちよつと火傷しただけでも死ぬほど痛いですよ。この人はこんなに火傷しているので、意識を保ってられない。意識を落とす薬も併用し、その後遺症もあって、また事件のショックもあって、ほとんどしゃべれなくなつた。お見舞いに行っても、何度も無言の状態でした。1年半かかって退院したのですけれど、退院したとき、障害は1級で後遺症がむちゃくちゃ残つたのです。

野宿者襲撃、全国で

その後も、夏休みが始まると事件が起こる状態が続いています。もちろん、これは大阪だけでなく、全国でも起こっています。大きく報道された例で言うと、3年ほど前、姫路市で、中学生グループと高校生リーダーが、ビールビンにガソリンをつめて火炎瓶を作つて、地元で野宿している60歳の人に投げつけて、焼き殺しました。この人は足に障害があつたので逃げ遅れた。犯人が捕まる前に時間があつたので、リー

ダーの高校生は卒業式を迎えることができず、彼は京都の全寮制の高校に通っていて、優等生だったらしく、卒業式では卒業生代表として答辞を読んでいる。答辞の内容はというと、「人間として思いやりの心を忘れず、凜とした姿勢で生きていくことが大事です」と言っただけです。

同じ頃に、愛知県の岡崎市で、中学生グループと28歳の男性が組んで、鉄パイプで地元で野宿している69歳の女性の野宿者を滅多打ちにして殺しています。目的はお金を奪うためです。女性野宿者の殺害は日本で初めてです。

野宿者に対する大人の偏見

何で、10代の少年グループが野宿者を襲うのか。皆さんご存知だと思いますが、日本の若者は、世界一、人を殺しません。統計を見ると、日本の若者の中の殺人者の割合は世界最低です。人を殺さない若い者ということになります。そうなんだけれど、野宿者に対する襲撃に関しては、完全に逆転しています。こんな話をすると、いわゆる「少年の心の闇」みたいな話になってしまうのですが、大人の影響もあるのではないかと思います。中学、高校でこのような話をすることがあって、そのときに生徒にアンケートをとることがあります。いろんなアンケートをとるのですが、「皆さんの家の人が野宿者について、何か言っているのを聞いたことありませんか」と尋ねるといろんな答えが出てきます。も

ちろんいい答えもいっぱいあって、たとえば、「私のお母さんはホームレスの人がいると声をかけて、一緒に病院に行ったり、相談に乗っています」というような答えもあります。が、「あんな風になりたくなくなったら、もっと勉強しなさい」というのが一番多い。こんなものもあります。「私の母さんは、ホームレスと目を合わせてはいけませんと言います」。なぜかお母さんが多いのですが、「私のお母さんは、ホームレスから話しかけられても無視しなさいと言う」のもありました。

要するに、関わるなということ。親からすると、子供と野宿者・ホームレスが関わりたくないと思っている。ただ、実際には、野宿者はしよちゆう子供から襲われていますが、逆に、野宿者が子供を襲った事例はほとんど聞いたことがない。ゼロではありません。大阪は日本で一番野宿者が多いのですが、僕らは、大阪市の教育委員会と交渉をやっている、あるとき、教育委員会の人に、「大阪で野宿者が子供を襲った例は報告されていますか」と聞いたら、教育委員会の人は、「そんな話は聞いたことがない」と言っていました。それなら、なんで、こんな言い方されるのかなと思う。たとえば、これはあまりいい例ではありませんが、分かりやすいからあえて言いますが、親が子供に、「障害者と目を合わせてはいけません」などと言ったら、大問題です。当たり前です。あるいは、親が子供に、「在日の人から話しかけられても無視しなさい」と言ったら、これは社会問題です。当たり前です。そうなんだけれど、主に、失業によって貧困になった、究極の貧困者である野宿者については、こういうことが結構平気で言われているということです。

子供としては、ちっちゃいときからこんなことを散々言われたら、あやつて公園に寝ている人は危ないのだ、関わつてはいけないのだ、住む世界がちがうのだ、と思ったとしても無理はありません。そういう意味では、大人の偏見が子供の襲撃を後押ししているのでないかと思うことがあります。

襲撃する子ども自身の問題

もちろん、子ども自身の問題もあると思います。これについては、僕が授業で行った先の中学生の感想文が一番参考になりました。中学3年生の女の子だったのだけれど、こう書いています。「家も仕事もある人で、自分の居場所のない人が野宿者を襲うんだと思います。ハウスがあつてもホームがない人、ハウスがなくてもホームにいる人、比べるのはよくないことかもしれないけれど、私から見たら後者の人が人間らしい人だと思います」。家も仕事もある人で居場所のない人が野宿者を襲う、という。ハウスがなくてもホームにいる人、野宿者はハウスがないですね、家がない。だけでも、野宿しながら野宿者仲間同士で、助け合ったり、地域の人と人間関係を作つて、温かい人間関係を持っている人が結構いる。そういう人は、アットホームと言いますが、居場所がある。だから、ハウスはないけれどホームはある。逆に、野宿者を襲う子どもたちは、ハウスはあるんですよ、家があるから。だけど、自分が困つたときに本当に助けてくれる人間関係がなかったり、あるいは、自分という

存在をありのままの存在として受け止めてくれるいい関係がなかったり、そういう、居場所のない、ホームのない子供たちがいるということです。ハウスはあるけれどホームのない子供たちが野宿者を襲っている。だから、その子に言わせると、野宿者を襲う子供こそホームレスだという。これは、非常に鋭いなと思いました。

襲撃に対して最も効果的なのは、学校での授業

襲撃を阻止するのは非常に厄介です。襲撃があんまりしつこく続くときには、僕ら、張り込みをやるんですよ。仲間を集めて僕ら自身がダンボールハウスに寝泊りして、襲撃したら皆で飛び出して捕まえてしまおうと。捕まえて、野宿をやっている人と朝まで話をして、考え方を変えてもらおうと思つているのですけれど、襲撃に来るかどうかは向こうの気分次第なので、張り込んでなかなか来てくれません。なかなか捕まらないです。

襲撃に対して最も効果的なのは、学校での授業です。神奈川県川崎市では、野宿者に対する襲撃が多発したので、そのときに地元の支援団体と川崎市の教育委員会が話し合いをして、10年前から、川崎市の全ての公立学校、小・中・高校で野宿問題の授業が行われるようになりました。その結果どうなったかと言うと、野宿者に対する襲撃がそれまでの3分の1に減った。特に、大都市圏の子供にとっては、野宿者は見慣れた存在ですが、子供たちは、なんで野宿になったのかとか、ど

ういう生活をしているのかとか、どういふ社会的背景があつて、どういふ風に解決していけるのか、など何も知りません。言葉は悪いけれど、「汚れのおちちゃんが寝ている」、としか思っていない。もちろん、地方の子供たちにとつてもそうで、周りに野宿をやっている人があんまりなくとも、テレビとか新聞とか、いろんなところに野宿の人の話は出てくるのだけど、それらは偏見を持って書かれている。そういう中で授業をやると、反応が全然違つてきます。そういう授業をすることで、子供は加害者にならなくなるし、野宿者が被害をうけないようになる。学校での授業は非常に大きな意味があります。

野宿者の医療状態

今の資料の下のほうに、「大阪市、ホームレス「路上死」年間200人」という新聞記事があります。時々、日本のホームレスは恵まれていると言われることがあります。いいものをいっぱい食べるし、いざとなつたら救急車で運ばれて、高度の医療が受けられると。日本のホームレスには糖尿病の人がいるとか、前厚生労働大臣も言っていました。これは実態の知らない人の言うことです。みんな、健康状態は悪いです。この記事の200人ですが、これは分かつているだけで200人ということなんです。この調査をした研究者に聞いたのですが、これは死体の検死記録を片っ端から調べて、その中で野宿をやっているのが確実に分かつた人が200人だそうです。書類を見ると、たとえば、大阪の南港で死んだ人はい

るけれど、その人が野宿者であつたのかどうか、記録を見てもなかなか分からない。分かつているだけでこれだけなのだから、もつと何倍もいるだろうと。平たく言うと、毎日、大阪市のどつかで野宿者が死んでいるということなんです。

こういう状態なので、夜回りをやっていると、死体の第一発見者になることがあります。僕も、学生時代から夜回りをやっているので、なかどか死体の第一発見者になっています。夜回りをやっていると、公園で倒れている人がいて、触つたら死後硬直でカチカチだったとか、あるいは、ビルから飛び降りて頭がへこんだ状態で見つけたとか、あるいは、テントを張っている人に声をかけるのですけれど、「今晚は、今晚は」と声をかけても出てこないの、2週間前に置いたビラがそのままなので、おかしいなと思ひ、「すみません」と言つて中に入つたら、死後2週間経つて腐つていたとかありました。

あと1時間早く夜回りをやつていれば、この人まだ生きていたかも知れないし、あるいは、毎晩夜回りをやつていて、病院に連れて行けば助かつていたかも知れない。だけど、社会的支援も少ないし、ボランティアも少ないし、みすみすぐ近くで死んでいく人がいっぱいいます。

ちなみに、結核は戦後日本で蔓延して、それは貧困状態とか、あるいは栄養不良が原因でした。釜ヶ崎ではいまでも10人に1人は結核と言われています。3年前の報道でも、釜ヶ崎の結核罹患率は南アフリカよりも、カンボジアよりも、2倍以上高く、「世界最悪の結核感染地」と報道されました。これは、不安定な生活や貧困が原因です。国境な

き医師団、これは海外の難民キャンプなどで活躍している医療従事者の団体ですが、この国境なき医師団は、数年間、東京と大阪の野宿者の医療活動を行っていました。日本の野宿者の医療状態があまりにもひどいので、国境なき医師団が立ち上がったのです。国境なき医師団の先進国での活動は非常に異例で、日本は本格的な支援対象国です。大阪で、国境なき医師団の人と話をしたのですけれど、いろんなデータを基に、こう言っていました。「大阪の野宿者の置かれている医療状態は、海外の難民キャンプのかなり悪いほうに相当する」。大阪という大都会の中に難民キャンプが広がっているような状態です。

ビデオ「ホームレスと出会う子供たち」を見る

ここからビデオを20分ほど見ていただきたいと思います。これは、「ホームレス問題の授業づくり全国ネット」という、教員を中心に300人ほど集まっている団体ですが、そこで、「ホームレスと出会う子どもたち」というDVD教材を作りました。実態を伝えるDVDを作って、これを基に、指導案も入っているので、各学校で授業に使ってみてくれませんかということなんです。全部で75分ですが、そのうちの最初のほうの20分ほどを見ていただきます。釜ヶ崎で行われている「子供夜回り」と、僕らが夜回りをやっている区域でダンボール集めをやっている人の1日が、出てきます。

(ここからビデオを見る。)

—子供たちが夜回りをして、野宿している人に声をかけるところからビデオは始まる—

—釜ヶ崎に子供が集まる児童館、「こどもの里」がある—

—「こどもの里」は、子供が自由に過ごすことが出来る施設です。遊びにやってくる以外に、様々な事情を持つ子供が安心して暮らせる場所になつている—

—土曜日の夕方5時、子供たちが、オニギリを作っている。はしやぎながら、何のために作っているのという問いかけに、「おじちゃんたち」、

「酔っ払っているおっさん」にあげる—

—寒さの増す1月から3月の毎週土曜日、「こどもの里」では夜回りをする。訪ねる先は野宿するホームレスの人たち—

—「こんばんは」、「身体の具合はどうですか」と子供たちが声をかける。夜回りでは、寒さを防ぐために毛布や、おにぎりを渡すが、ものを渡す以上に大切にしているのは、1人ひとりと話をする—

—「なんでここまで来たんですか」、「何年ここにいらつしやるのですか」と子供が尋ねる。失業した事情や現在の身体の具合や故郷はどこかなど、ホームレスの人がそれに答える。子供たちはそれを真剣に聞いている—

—子供たちが夜回りしているところで、話に参加できない高校生たちがいる。「なぜいっしょに話に入らないの」、高校生「なんかじゃまになるかと」、「いきなり入ってもあれだし」。初めて参加す高校生I君は後ろ

から見ていただけだった―

―別の場面、中学生が受験に合格したことをダンボールの中にいる人に報告している。「受験でしばらく来られなかったのですよ」「合格したのか、それは、おめでどう」。その人の誕生日を覚えていて「おっちゃんにおめでどうとだけ言いたかったのですよ、遅くなつたけれど」―

―「子どもの里に帰ってから、子供たちは、1人ずつ、その夜にあつたことを発表する。そのとき思ったこと、感じたことを全員が話す。「おっちゃんにおにぎりや味噌汁を渡すとき、おっちゃんたちの手はとても暖かかったです」。「おっちゃんたちに昔何をしてたのか聞いたら、ビルを建てていたと言っていました」。「ダンボールを集めているおじさんに会いました。ダンボールは安くなっているので大変だと言っていました」

―この夜回りは1980年から20年以上も続けている。なぜこのような活動を始めたのか―

―1983年、横浜の山下公園で野宿をしていた60歳の須藤泰三さんが中学生を含む5人の少年グループから暴力を受けて殺されました。そのことに大きなショックを受けた「子どもの里」の館長、荘保(シヨウホ)さんは、地元、釜ヶ崎の子供はどうなのか調べてみました―

―野宿者は、怖くて汚い。中には、唾をかけたたり、爆竹を投げる子がいた。野宿する人の事情をきちんと知らせる必要があると考えた。それが、どうして夜回りになったのか―

―「大人が、言葉で、本当はあんなのです、こんなのですと言つても、多

分よく分からない。子供には実際に体験させることが大切。直接話を聞くと、子供たちはとても納得する。分かつて受け入れる」―

―野宿生活とはいったいどのようなものか、ある人の暮らしを見せてもらいました―

―野宿生活が2ヶ月になるSさん。脳梗塞で倒れてこのような生活になった。ガードマンの仕事で、頭が具合悪くなったので、―自分では脳梗塞かなとはおもっていたが、救急車を呼んでくれと言ったが、人がいないので5時まで目いっぱいしてくれと言われ、呼んでくれなかった。「そのとき病院に行つておれば、後遺症は残っていなかった。右肩から足の先までしびれている」。一番したいのは、「安全に寝ることと、飯を食うこと。そうであればなんぼでも仕事は探せる。60を過ぎると仕事はないわ」―

―Sさんは店から出るダンボールを集め、それを売って生活している―
―店の前に置いてあるダンボールを、「ダンボールもらいます」と声をかけて集めていく。不況のせいで、ダンボールを集める人が増えて、Sさんがダンボールを手に入れることができない日もある。1日20キロほど歩く。今日は5時に起きて、朝から2回集めた。今まで3回やった。これが終われば4回で、今日はこれで終わり―

―昔は、消防署員やった。梯子車に乗っていた。火事の現場で人の死骸を見る、その死骸を踏んだこともある。それらがいやで止めた。20歳ぐらいのときや。ずっとおればよかったと思うけれど、どこの仕事でもいろんなことがあるからな―

―台車に乗せて運んでいたダンボールの山が崩れて道に落ちる。積み方が悪かったからだ、最初から積みなおして運ぶ。4回目のダンボールは31キロ。朝の5時から夕方まで働いて、合計900円―

―1個90円のインスタントラーメンを2個買う。これが今日の食事。ラーメンを作るための立ち寄ったのは、「故郷の家」という民間の施設。ここではだれでも水とガスを使うことが出来る。ラーメンを作って食べる

―食へることと同じように大切なのは、夜眠ること。Sさんは眠ることが出来るのでしょうか―

―「ゆっくり寝られんな、いつ襲われるか分からんから。考えているからな。簡単には寝られん。雨の降った日は特に怖い。傘で刺されるから酔っ払いが通ると、傘でダンボールを刺す。一番怖いのはエアガンやなあれが一番怖かった。両方からつかまれて頭の上に何か乗せた。それを撃ちよる。頭、ぼこぼこや。たんこぶが出来とった。高校生くらいかな。

1メートルくらいのところから撃たれる。まともに当たったら目がつぶれる。4人くらいやった。すぐに交番に行ったけれど、警察官はいなかったし。―そんなんなら、安心して眠られないでしょう。―「ホームレスはみんなそうやで。路上生活している人間はみんなそう思っている」―

生田 ここですいたんビデオを終えます。

子ども夜回りは冬の時期に毎週1回行われています。僕も一緒に回っていました。夜中の2時ごろまで夜回りをやっています。ビデオに出してきたSさんはいまでも野宿しています。「もう、身体も悪いし、生活

保護を受けませんか」と言ったのですが、「いやいや、まだ、ダンボールを集めて自分生活する」という返事でした。

いす取りゲーム

ここで、もう少し、野宿と貧困についてお話します。

野宿と貧困の話をするとき必ず出てくるのは、野宿になったのは、その人によつて問題があったのでないですか、ということ。だって、ほとんどの人は野宿なんかしていないでいいですか、と言われる。これは、僕らのように野宿者との付き合いが長い者が聞いたら、それは違つてピンと来ます。いまビデオにあったSさんもそうですが、みんなめっちゃくちや頑張つて生きている人が多いので、努力が足りないから野宿になったとは、とても思えない。しかし、それは、現場に関わっていない人に説明しようとする、結構厄介なのです。

ここで、いす取りゲームを考えてみます。

たとえば、いすの数が3個で人間が5人します。音楽がなっている間、ぐるぐる回つて、音楽が止まるとぱつと座る。この場合、人間の数が5人でいすの数が3個なので、3人が座つて2人は座れない。仮に、Aさんが座つたとすると、Aさんは、「僕は人より頑張つたから座れた」と思う。Bさんがいすが取れなかったとすると、「自分はAさんより努力が足りなかったの、いすが取れなかったのだ、次は頑張ろう」と思つかもしれません。また、音楽がなつて、ぐるぐる回つて、音楽が止まると

ばつと座る。今度、Aさんがいすが取れなかったら、Aさん、「今度は油断していた、油断大敵だ、次からは気を引き締めてやろう」と思うかもしれない。

何が言いたいかと言うと、この場合、いすが仕事で、いすを取ったのが仕事がある状態で、いすから落ちたのは仕事のない失業状態です。失業している状態が続くと、収入がなくなりますから、もともとお金持ちだった人は別として、やがてお金がなくなつて野宿になることがあります。どんどんゲームをしていくのですが、では、参加者5人が今の100倍努力して、走り回つていすを取りに行つたらどうなるでしょう。誰かがいすを取つたら、代わりに誰かがいすを取れなくなる。結局、3人が取れて2人が落ちることには変わりはない。では、参加者が今の10000倍の努力で走つたらどうなるでしょう。そうだとしても、いすの数が3つで、人間が5人という条件は変わらないのだから、3人が座れて2人がいすから落ちることには変わりはない。つまり、いすが取れるかどうかは、個人の努力の問題では100%なくて、いすの数と人間の数とが問題、つまり、構造的な問題です。

今、失業率がどんどん上がっていますが、これは、ある意味では、それまでいすの数が4つあったのが、いすが1個なくなつたようなものではない。いすの数が1個なくなると、誰がどのように努力しても、いすに座れない人が1人増える。こんな感じで野宿する人がだんだん増えてきたのではないかと思ひます。

海外の野宿者、日本はそれを20年遅れで追っている

今までは日本の話をしてきましたが、海外はどうか。現時点で、アメリカでは野宿している人の数は80万人。日本と比較にならないくらい多いです。たとえば、ニューヨーク市。ここでは、昨年の4月の段階で、野宿になる家族が激増して、9420家族が野宿していると、ニューヨークタイムズで報道されました。なぜこういうことになるかというと、アメリカは日本なんかよりはるかに貧富の差が激しい国で、ビル・ゲイツやイチローのような人がいる一方で、大半の人は貧乏人です。どう貧乏かという点、たとえば、お父さんがフルタイムで働いても家賃を払うことが出来ません。典型的なワーキングプアー状態があつて、だから、こんな風になれば家族が野宿している。

イギリスやフランスでも、大体、40万人くらいのホームレスがいます。ただ、欧米の場合は、シェルターなどに入っている人がほとんど、路上にダイレクトに寝る人はあまりいないようです。イギリスでも、ホームレスの主流は20代から30代の若者で、50代・60代で野宿やつている人はあまりいません。

よく、日本は、社会現象について欧米を20年遅れで追っかけていると言われています。イギリスでは、いつごろから、この20代から30代の野宿が社会問題になったかという点、これは若者の長期失業とか、家族に頼れないというようなことが根本にあるのですけれど、1980年代からです。日本は20年ほど遅れて追っかけていると話しましたが、

1980年代の20年後というのは、2000年代です。日本では、00年代に何が起ったかと言うと、2007年にはネットカフェ難民が社会問題になりました。あれは、日雇い派遣に行っていて、野宿していたりして、時々ネットカフェに泊まっている若者が社会問題になりました。あれは、事実上の若者のホームレス問題でした。2008年から2009年にかけては、派遣村が問題になりました。派遣切りにあつた20代・30代の若者が野宿になって、派遣村がそれを引き受けた。

要するに、日本は、欧米をちょうど20年遅れで、順調に追っかけています。本当に見事です。じゃあ、日本の20年後はどうかと言うと、今のアメリカ、ヨーロッパのような感じになると当然予想出来ます。こんな風になるわけないと思いたいのですが、そんなこと言ったら、20年前には、ネットカフェ難民とか派遣村などは予想も付かなかつたですから、何が起るか分からないと思います。

フリーターの今後

たとえば、今、フリーターは400万人いると言われてます。フリーターとは何かというと、多業種の日雇い労働者です。いつ首になるかわからない。怪我をしたら一巻の終わり。景気が悪くなったら、まず、首を切られる。多くの日雇い労働者が野宿になったように、将来的に、フリーターが野宿になる可能性は結構あるかもしれない。フリーターが50歳になって、あるいは60歳になったら、ちゃんと生計が維持でき

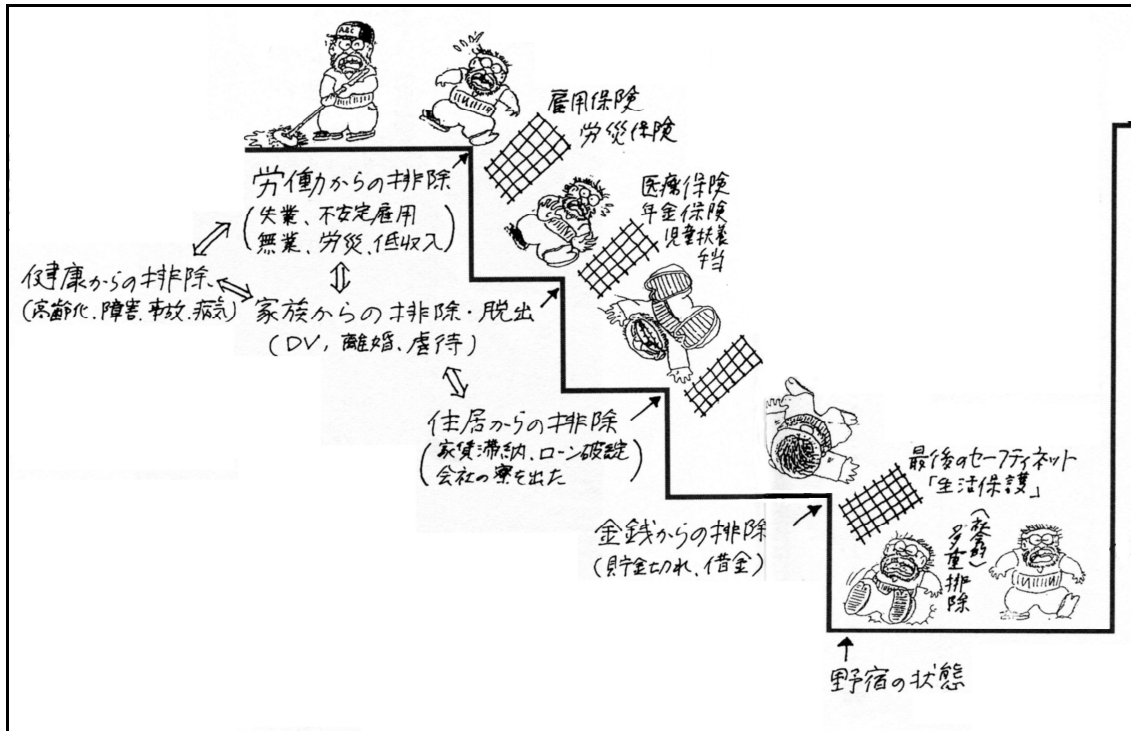
るかどうかわからないですよ。ただ、今の多くの若者のフリーターは、自分で頑張ったり、社会的に支援があつたりして、何とかなると思うのです。だけでも、仮に99%が何とかなつて、1%だけが野宿になつたとしても、4万人の野宿者が発生します。これは今より大きな値です。

日雇い労働者がたどつた先例を考えれば、1%で済むとはとても思えない。2%なら8万人、5%なら20万人です。イギリスくらいの規模になる。放つておいたらそれくらいになるのでないかと、予想ができません。もちろん、そうなるてはまずいので、そうならないためには、何か出来ないかというのが今の我々に問われている問題だと思います。

労働からの排除、健康からの排除、家族からの排除

資料の一番最初に階段の絵が描いてあります(次ページの図)。これは中学校や高等学校でよく使っているもので、学校で使っているときは、階段とキャラクターの絵だけなのですが、ここでは大人向けにいろいろ書き込んであります。

最初、おじさんが掃除をしている絵があります。これは、家と仕事がある状態です。生まれたときから野宿をやっている人はまずいので、最初の状態はこういうところなんです。野宿になるのは、あるとき突然なるのでなくて、段階を追つてなつていくと思うのです。一番多いのは、ここに書いてある「労働からの排除」。失業ですね。実際、夜回りをやっ



ていると、多くの野宿をやっている人が、「仕事があれば、こんなところで寝ていない」と言います。そう言っている人たちは、仕事があったときは野宿をしませんでした。いろんなデータが示すように、日本で野宿している人のほとんどが失業の結果です。それに、怪我などの「健康からの排除」があります。フリーターや日雇いの人は怪我をしたら一巻の終わりです。それから、「家族からの排除」もありますが、これはDV(家庭内暴力)、離婚、虐待などです。

これら3つ、「労働からの排除」、「健康からの排除」、「家族からの排除」は、相互に関連します。たとえば、病気のために失業した人もいるし、DVから逃げるために失業した人もいるし、失業したら離婚したという人もいます。

住居からの排除、金銭からの排除

仕事がなくても、家さえあれば何とかなるのですが、次に、「住居からの排除」が待っている。家賃滞納とか、ローン破綻。去年は、持ち家ローンの滞納が最高になった年でした。今、貧困の結果、持ち家を手放す人が激増しています。家がなくても、お金がいっぱいあれば野宿になることはないのだけれど、ここで「金銭からの排除」が起ころ。貯金切れとか書いてあります。ここにメモがありますが、昨年の日銀金融広報中央委員会の調べで、2人以上世帯で22%、単身世帯で30%が貯蓄ゼロです。平たく言うと、日本中で10軒のうち、2軒か3軒が貯蓄ゼロで

暮らしています、ということですよ。だから、何かあったら一巻の終わりです。昔は、日本人は貯蓄好きといわれたけれど、完全に過去のことになりました。好きかも知れないけれど、今は、貯蓄できない。最後はこの階段の下に落ちて野宿です。

本来であれば、落ちそうになっても、網が張ってあつて落ちるのを防ぐようになっていて。これを、セーフティネットといいます。これが、今日本ではぼろぼろになっている。

たとえば、失業したときには、雇用保険・失業保険があつて、これに引掛かつて助かる。失業保険をもらいながら次の仕事を探すことが出来るはずですよ。ところが、ここに書いてあるように、日本の失業へのセーフティネットは、アメリカと並んで弱い部類に入り、失業者の77%が給付を受けていない状態です。数字が逆でないかと思えますね。77%が受けらるのじゃなくて、77%が受けられない。つまり、8割近くがここから落ちこちていきます。

健康の問題については、健康保険がセーフティネットになるのだけけれど、これがまた問題です。一昨年、子供の保険問題が社会問題になりました。つまり、保護者が健康保険を払っていないと、病気になつても病院に行けない子供が日本中で3万3千人いて、大問題になりました。あれは、ほとんどが、国民健康保険でした。国民健康保険はめちゃくちゃ高いですね。僕はずっと日雇い健康保険に入つていて、去年から国民健康保険に切り替えたのですが、高いのでビックリ仰天しました。家賃より保険料のほうが高いです。国民健康保険は自治体によって保険

料が違つていて、一番高いのは大阪府の寝屋川市で、4人家族で年収200万円、月収でいうと17万円、まあ4人家族で年収200万円は貧乏な方だと思えますが、保険料が年間に50万数千円です。年収の4分の1が健康保険に消える。それだけ払つてなおかつ3割負担です。そんなの、払えるわけがない。

国民健康保険はいま、保険としてのバランスが明らかに異常な状態にきていると思います。こんな高かったら、「払えないから払うの止めます、病気になったら実費で行きます」という家族が多いのですが、よく分かる話です。しかし、インフルエンザなら2、3万払えば何とかなるけれど、この家族が入院したら、経済的におしまいです。こういった形で破綻する家庭が増えている。

それから、住居のセーフティネットとしては、公営住宅があります。国とか県が安い住宅を造つて、お金のない人に安く貸すというものです。ご存知のように、日本は公営住宅がもとも少ない上に、今、ほとんど造つていません。なので、日本全体での公営住宅の倍率は、確か、約8倍です。ひとつ部屋が空いたら8人が応募する。日本全体の倍率の計算には、もちろん、田舎も入っているのです。大阪市の人気のある公営住宅の倍率は、100倍を超えています。よく、宝くじよりあたらなと言われる。宝くじより当たらないのが日本の住宅のセーフティネットです。

生活保護に対する役所の水際作戦

最後のセーフティネットが、ご存じの生活保護です。日本には憲法二十五条があつて、生存権といつて、全ての人に最低限の文化的生活を保障するとあります。それを実現するために生活保護法があつて、これは困窮した人すべてに無差別平等に、最低限の文化的生活を保障します。だから、憲法と生活保護法が守られていれば、日本に2万人もの野宿者がいるわけがないのです。それなら、なぜそれほど多くの人が野宿しているのかというと、野宿やつている人が役所に生活保護を申請に行くと、みんな追い返されてしまいました。たとえば、「あなたはまだ58歳でしょう。働きなさい」とか、あるいは、「あなたは住む家がないじゃないですか。住む家のない人は生活保護を受けられませんよ」。2年前には北九州市で、生活保護を受けたのに受けられなくて、餓死した人がいた。「おにぎり食へたい」と書いてあつて、社会問題になった。あれは一例で、日本中に同じような人はいっぱいいた。このような追い返しのやり方が、よく言う、水際作戦です。

憲法にも、生活保護法にも、住所がないとだめとか、年齢がどうだとか、全然書いてない。住む家がなくなくなるほど困っている人には、真っ先に生活保護をかけなければいけないのですが、役所に行つて追い返される人は、残念ながら、今でも結構います。

就職するにはお金が必要、住所が必要

いったん野宿になると、もとの生活に戻るのに、同じ時間がかかるのだけれど、今度は、階段でなくて壁になつていて、どうしても登ることができません。

就職しても給料日までの生活費がない、と資料に書いてありますが、皆さん、お金がないと就職できませんね。どういふことかというところ、たとえば、手持ちの金が2千円くらいでどつかの会社に就職したとします。次にお金の入ってくるのは1ヶ月以上先です。それまでどうやって生活するかということになります。つまり、今なら、ダンボールを集めたり、日雇い派遣の仕事に行ったりして、その日のうちにちよつとずつだけれど、お金は入っていたのだけれど、うっかり就職するとお金が入ってこなくなる。朝の8時から夕方まで働いて、そのあとダンボール集めはとでもしんどい。というわけで、20万か30万の金がないと就職できない。つまり、お金がないと就職できない。

それから、住所がないと会社やハローワークが相手にしてくれない。最近、ハローワークはましになりましたが、やはり住所がないと仕事を見つけてるのは難しいですね。それから、保証人がいないとアパートなどに入居できない。資格・技術がなく、低賃金の仕事しかない。

自分を責め社会に絶望する若い人

また、この図には、自身と社会への信頼を失った、と書いてありますが、これが一番厄介です。僕らのところに直で電話で相談に来る若い人がいるのですが、その人たちと話をしていると、みんな自分を責めているのです。こうなったのは私が悪いのです、あのときああしていればこんなことにならなかったのです、などと言う。相談に来た人で、「こうなったのは社会が悪い」と言う人に会ったことありません。派遣切りがそうなんだけれど、あなたの責任でなくて社会の責任でないかなという点についても、なぜか、みんな、自分を責めているのです。世の中、失敗したことのない人はいませんから、探せば失敗は必ず見つかる。何で、みんな自分を責めるのかと思います。一つは、世の中に余裕がなくなると、誰も他の人を助けられなくなると、自分で頑張るしかないのだという空気が広まっているので、そう思うのかなという気がします。

さつき言い忘れたのですが、僕のところにも相談に来る人は、だいたい、あつちこちに相談に行っているのです。他の団体に行ったり、役所に行ったり、ハローワークに行ったりしているのですが、どこでもたらい回しにあつて、最後に僕のところにも相談に来る。なので、僕が駆けつけると、本当に来たよ、と言うような感じでびっくりしたのです。ただ、そうなる、と、苦しい実情を訴えたのに誰も助けの手を差し伸べてくれなかったという、社会に対する絶望がたまっています。自分を責め、なおかつ社会に絶望すると、自暴自棄になってもおかしくはない。自暴自棄になった

人を、どう支えるかは難しいです。こんな風に、いろんな状況が積み重なっていて、もとの状況に戻るのとはとても難しい。

高い壁に段差をつける

じゃあ、どうすればいいのかということ。話は簡単で、高い壁になつているところに段差をつけなければいい。具体的には、水際作戦があるんだつたら、一緒に役所に行きましよう。僕らが一緒に行くとか、あるいは、特に、弁護士と一緒にいくと、役所の人はガラリと変わる。それから、「就職してもお金がなくて生活できない」のだったら、お金貸しましよう。あとで月々返してもらおう。これでなんとかなります。僕らがたまにお金貸すことがあります。ちゃんと返してくれます。「住所がないと会社やハローワークが相手にしてくれない」のだったら、生活保護を取つてアパートを確保して仕事を探すのが一番硬いですし、それ以外なら、自立支援センターという施設があつて、そこで生活しながら仕事を探す場合もあります。

あと、「保証人がいないとアパートなどに入居できない」については、僕ら自身が保証人になつたり、連絡先になつて、アパートに入ってもらうことが出来ます。「資格・技術がなく、低賃金の仕事しかない」、これは行政の仕事で、今段々増えています。3年間は職業訓練で学校に行つてください、その間の生活費は保証します、という制度が広がっています。これが非常に有効でないかと思えます。「自身と社会への信頼

を失った」は、ある意味厄介ですけど、これについてはとりあえず生活を安定させた上で、ゆっくり人間関係をもう一回構築していくしかないんじゃないかと思えます。

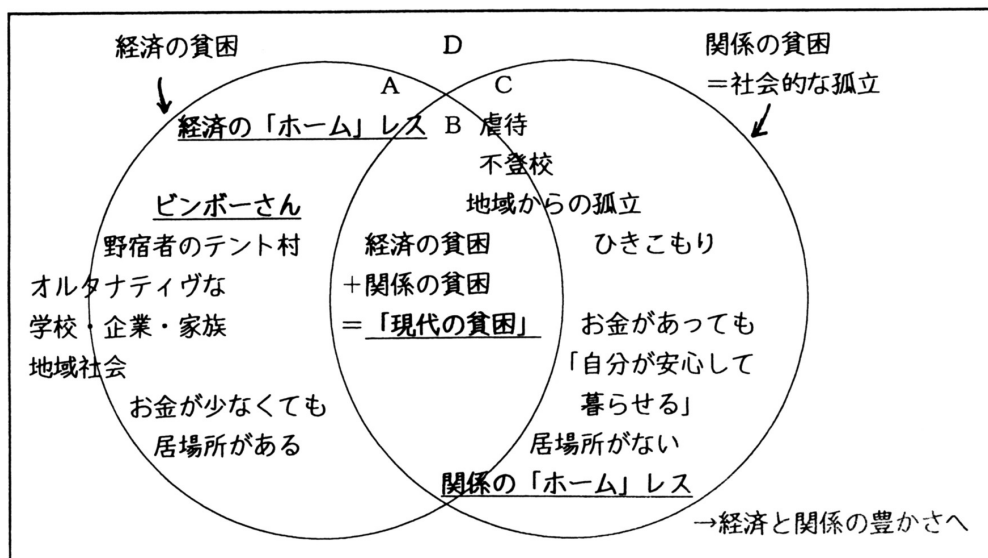
僕らのような支援者やボランティア、行政の貧困対策は、この図にある階段造りをやっているのです。階段を造らずに「頑張れ頑張れ」、「人間根性だ」、と言っても出来ないものはできません。人間には限界がありますから。だけど、社会的な支援によつて、一步一步登っていけばなんとかなるといふ見通しがつけば、また頑張ろうかという気力もわいてくるのではないのでしょうか。

たまに、「ホームレスはやる気がないのだ、だから、手助けしたって無駄だ」という人がいます。壁の状態が何年も続いていると、頑張る気もわいてこないのではないかと思えます。壁の状態で頑張れ頑張れといつても、やる気は余計なくなるだけだと思います。社会的な支援が必要なのです。

経済の貧困、関係の貧困

配布資料の2枚目に、「経済の貧困+関係の貧困=現代の貧困」とあります。僕たちは野宿や貧困の現場にいるので、お金がないという経済の貧困を目の当たりにしていますが、ただ、現場で関わっていると、関係の貧困というものを考えないと、問題が解けないのではないかと、思うことがあります。図で表すとこうなります(下の図)。こつちがお金

のない経済の貧困、こつちが関係の貧困、社会的に孤立している状態です。



A(経済の貧困のみの部分)、これは、お金がないのだけれど、社会的には孤立していない状態です。代表が「ビンボーさん」。「銭形金太郎」という、クリームシチューが司会していた番組があつて、惜しくも終わっちゃいましたが、そこで、お金が月収2、3万しかない明るいビンボーさんが沢山でていました。確かに、あの人たちはお金はなかったのです。しかし、自給自足の生活をしたり、地域の人と付き合ったりして、結構明るく楽しく生きていましたね。あの人たちはお金がないけれど、孤立していない状態で、この図のAの状態です。野宿者のテント村もそういうところがあります。公園等でテントを張っている人たちには濃密な人間関係があります。それこそ、醤油の貸し借りから始まって、助け合わないと生きていけない。ある意味で、経済的な貧困を人間関係でカバーしている。そういう助け合いの状態が作られています。

逆のC(経済の貧困はないけれど、関係の貧困がある状態)は、お金があつても社会的に孤立している状態で、代表はひきこもりです。今の子供への虐待については、経済的な貧困の要因が大きいのではないかと言われています。もちろん、これは、貧乏人は性格が悪いとか、攻撃的だという意味ではなくて、お金もちの家でさえ子供への虐待は起るのだから、お金がなくなつてきて、時間の余裕も精神的な余裕もなくなつてくれば、そのストレスや様々なひずみが一番弱い子供に行くということですよ。その意味で、虐待は経済の貧困と関係の貧困が重なった部分に位置します。特に、子供にとっては、全世界である家庭で居場所がなくなるので、虐待は関係の貧困の最悪の形です。

僕らは支援者なので、テント村にいる野宿者に声をかけて、アパートを借りてもらふことあります。野宿から生活保護でアパートに入ると、孤立してしまう人がけっこういて、アパートに入ったのだけれど一歩も外に出なくなつたとか、誰とも話をしなくなつたとか、よく聞きます。何故かなと思うのですが、野宿しているときは、アルミ缶やダンボールを必死で集めて、生活に張りがあるのだけれど、アパートに入つて生活保護もらうと、だまつてもお金が入ってくるので、何をしたいか分からなくなる。逆に生活に張りがなくなる。テント村に帰つて友達と話せばいいのですが、経済格差が付いているので、気を使ってそうしない。生活保護でアパートに入ると、昔の仲間と付き合いなくなる人が結構います。完全に孤立して一日テレビを見てるとか、急に身体が悪くなつて亡くなる人もいます。そうになると、野宿やつていたのとアパート入つたのと、どっちがいいのかと考えることがあります。「経済の貧困」から「関係の貧困」に移つただけではないかということなんです。アパートに入った人については、僕らは、アパートを訪問したり、手紙を出したりして対応しているのですが、非常に難しいですね。

現代の貧困

この経済の貧困と関係の貧困が重なる領域が、現代の貧困です。派遣村の村長をやつていた湯浅さんが、貧乏と貧困は違ふと言っていますが、この図のA領域の貧乏と、B領域の貧困とが違ふということす

ね。

今の問題は、経済的な貧困がどんどん広がると同時に、社会的な孤立、関係の貧困が広がって、両方が広がることで、現代の貧困が広がっていることです。「経済の貧困」の極限が野宿者・ホームレスです。「関係の貧困」については、襲撃する子供たちはハウスがあるがホームがないと言いましたけれど、居場所がないということ、関係の「ホーム」レスとも言います。なので、野宿者襲撃は、「関係の貧困」の状態にある子供たちが、「経済の貧困」の状態にある野宿者を襲う関係として理解することもできます。Dの領域(Aの領域とCの領域の外の領域)は、経済的にはある程度お金はあるし、社会的のつながりがあるという状態です。我々としては、この領域を作らなければならないと思います。

少し長くなってしまいました。20年間活動していて、貧困問題が解決したかという、ますます悪化していると思います。今後の状態も、民主党政権になってから行政のほうは多少はよくなったのですが、根本的にある、労働者の使い捨てとか、低賃金など、全く解決していません。今は、蛇口が全開になっている状態で、生活保護だけで受け止めている状態です。こんなのはいつまでも続かないので、企業にも責任を取ってもらう、行政もしっかり動いてもらう、僕らのような民間の活動の支援者ももっと動くといった形で対応しないと、とんでもない社会になってしまわないかと、危機感を持っています。

今日お話したことを、心にちよつと止めていただいて、大阪と福井と離れています、何らかの形で連携したり、一緒に出来ることを見つけ

られたらと思います。それじゃ、これで終わります。皆様お疲れ様でした。(小休止)

講演後の質疑応答

野宿者襲撃といじめ

参加者 A ありがとうございます。最初のところで襲撃の話がありましたが、襲撃に加わっている子供たちは、小さいとき、小学校や中学校のときに、いじめの加害者であったとか、そういう因果関係はあるのですか。

生田 全国の家庭裁判所での調査がありますが、野宿者襲撃もそうなのですが、集団で殺人にいたるような、非常に深刻な事件を起こした少年グループについては、ほとんどの場合、いじめ体験がいじめられ体験があったと言われています。つまり、いじめとの因果関係がものすごく強いみたいです。野宿者襲撃はなにに似ているかと言うと、集団の力によって、一人の人を襲う、いじめに最も似ています。学校内の虐待がいじめだとすれば、学校外での虐待が野宿者襲撃として、一対の関係にあるのではないかと思います。

野宿者のいくつかの特徴

参加者B いろいろお話を聞くと絶望的になります。ちょっと、お訊ねしますが、野宿者やホームレス、そういう人とそうでない人、おおよっぱな話ですが、野宿者やホームレスの人たちのほうが人間的に優しい人間、そんな気がするのですが。そういう統計とか研究はありますか。

生田 野宿やっている人が100人いたら100人とも違うのですね。いわゆる、“困った人”もいるし、先ほどのビデオのSさんもそうですが、とてもいい人もいるし、一概には言えない気がします。たとえば、中学生100人いたら100人違うじゃないですか。中学生ってこんな人という定義がないように、野宿やっている人がこういう人だとは、あんまりいえないと思います。そういう意味では、一人ひとり見ていくしかないと思います。唯、いくつかの特徴はあります。この資料の階段の絵のところにも書いてありますが、日本の野宿をやっている人の56%が中学卒業者です。ものすごい低学歴なんです。いまどき、中卒という人はほとんどいませんから。つまり、なんといつても、日本は学歴社会で、学歴が低いと失業しやすく、そして野宿になりやすいというのは歴然としています。それから、うつ病などの精神的な病気を抱えた人が非常に多いです。これは、病気があつて野宿になった人もいるし、野宿生活があまりにも過酷なので病気になった人もいると思うのですが、そういう複合的な条件があると思います。

ここには書いてありませんが、いわゆる部落出身の人が非常に多い。それから在日の人も非常に多いです。昔は差別がひどかったので、就職に困難があつて悪い条件の仕事について、結局、結果的に貧困になった。そういう意味で、沖縄の人も結構多い。さっきの質問に戻れば、キャラクターというより社会的な属性、地域とか出身とか精神疾患とかに特徴があると思います。こういう状態なので、なおさら解決が困難です。

参加者B 今、勝ち組とかセレブとか言われていますが、だいたい基準になつているのは経済力でしよう。おぼこいことを言いますが、非常に大雑把に言つて、貧乏人のほうがひとのいい人間が多いと。世の成功者は、ひとが悪いか、あるいは性格が非常にハードか。そういう傾向があるように思うのです。経済ではない別の価値観がだんだん少なくなつていくように思うのですが。世の中だんだん多様性がなくなつてきて、経済という一つの座標で見る傾向が増えている。金儲けしている人は搾取していますね、だから、ひとのいい人間は搾取されている。人間本来の豊かさがだんだん、痩せ細つてきている。貧富の差が人間の差のように思われてしまうし、学歴社会もいけいけ金稼げるのだという位置付けになつていくように思います。感傷的な感想ですけれど。

生田 個人的には、野宿をやっている人は馬鹿正直というか、ひとがいというか、そういう実感があります。日雇い労働について、朝の3時・4時から仕事を探しに行くと言ったのですけれど、あれは典型的な取りゲームです。先に取った人が仕事に行けて残った人は仕事がない。

僕の知り合いの日雇いをやっていた人は、人と争って仕事を取るのがいやだったんです、誰かが私の代わりに失業すると。そういうのがいやだから日雇いを止めましたと言っていました。その人何をやっているのかと言うと、野宿やっているのです。人と争ってまで仕事をしたくないという人が野宿をやっている。本当は、そういう人は優しい人なので、みんなで助けなうって仕事が出来ていけばいいと思うのですが、そういう人は野宿になうていく。

いす取りゲーム

参加者C 今日はお話を聞かせていただいて、ありがとうございます。いす取りゲームのことなんですけれども、いすは全部同じいすだと思ふのです。たとえば、職業をあげれば、医師とか弁護士とか。Aさんは医師の資格を持っていてBさんは資格がない。それでは、持っていない人はいすに座れるかといううと、そうでない。社会復帰の方法として、3年間職業訓練の学校に通わせてもらうて、技術を身に付け資格を取うて再就職といううとき、職業には定員とか枠とかがありますから、みんな職に就けない。どうしたらいいのか、非常に難しい問題だと思ふます。そのようないすについて、どのようないすをお考えですか。

生田 壁があるけれど階段にすればなんとか登うていけると話しましたが、しかし、実際には登うても問題は残ります。階段を少しづつ登うてもとの所まで戻うた状態のところに、「ここに何をやうてい

るのかな？」と書いてありますが、その答えは、「いす取りゲームを、再び、やうている」のです。誰かがいすを取うたといううことは、誰かがいすから落ちたといううことです。これは大雑把な話ですが、今は、失業している人が全員、就職できるような状態ではありませんね。根本的には、正社員がめちやくちや働かされていて、過労死の人が増えていて、一方、非正規の人は低賃金の上に、いつ首になるか分からない状況です。「使いすぎ」と「使い捨て」の二極分化になうている。だから、頑張うて階段を登うていうても、どちかになるのだったら、意味がない気がするのです。仕事の状態そのものを改善していくしか、仕様がなないのうないかと思ふのです。

中・高校生に言うのうですけど、「いす取りゲームが前提にあるうとしたら、どういう解決方法があるの」と聞きます。基本的にはふたつしかなくて、一つは「いすを増やす」といすが増えたら皆座れるから。経済成長がこれに当たります。政府がよく言ううように、経済成長すれば仕事が増え、みんな仕事があるようになる。しかし、そんなの、いつになるか分からない。もう一つは、社会的起業です。自分たちで仕事を作うて、なおかつ、社会的に意義のある仕事をする。それから、もう一個は、「いすを分け合う」方法がある。つまり、ワークシェアリングです。

いすれにしても、今の状態で、もとの仕事の状態に戻しても、また同じことが繰り返されるような気がしないでもない。ある程度働けばある程度収入があるという、昔のようないすもな仕事を増やしていかな

ければいけないと感じます。階段を作って登っていくのは、対処療法ではないのです。根本的な解決を何とかしないとけないと思つています。

この間、引きこもりの人を招いて学習会をしたのです。その人は高校のときずっと引きこもっていて、支援団体に関わってちゃんと就職できたそうです。それはよかつたのだけれど、調理関係の仕事に行ったら、朝の8時から晩の10時まで働いて、給料が月に13万くらいだったらしい。結局、過労状態になって仕事を辞めた。しばらく自分もショックを受けて、その後再び社会支援があつて、もう一度就職した。やっぱり調理関係だつたのけれど、今度も1日12時間ほど働いて、15万くらいしかなくて、結局ぼろぼろになって辞めた。こんな話を聞くと、世の中どうなつてゐるのかと思う。社会復帰する、その社会つて何なんだろうなと思う。そこからへんから変えないといけないのでないかと感じます。

生徒に多様な価値観を

参加者D 実は、私は40年ほど大阪に出稼ぎに行っていました。定年になってこの地に帰ってきました。大阪にいた35, 6のときに、仕事の関係である高等学校の美術の先生と、親交を深めたことがあります。大阪の高等学校は、一種のカーストみたいで、偏差値ではつきりと区別されていたのですが、その先生の勤めておられた学校は、底辺から4番目くらいの学校でした。その先生が、このように言われた。

英語の嫌いな子や数学の嫌いな子に、おまえら勉強せ、勉強せ、数学や英語が出来なければ、世の中出ても何の役にも立たんぞ。こういう教育が蔓延していた。そのような中で彼らは育ってきた。ただ、彼らに、美術の時間に美術を教えたり、いろんなことをすると、たとえば、木を切るのが上手だとか、あるいは、絵を描くのが上手であつたりで、英語が出来たり数学が出来たりすること、必ずしも一致しない、まあ、こんなことを言われました。

職業の多様化というのですか、なんでもかんでも偏差値で、小学校から、勉強しなさい、勉強しなさい、そうでないといひ会社に行けない、公務員になればいいのだから勉強せ、勉強せで大きくなったことが、貧困や野宿と関係があるのでないかなあ、という気がするのです。僕らの世代は働きに行つておれば、はした金が稼げるという時代でしたが、今は、いす取りゲームでだんだん少なくなつてくると、こういうことがますます顕著になってくる、こんな風に思います。教育の現場にいる人が多様な価値観を植え付けてもらう、それは回り道かもしれないけれど、貧困などを救う道になるのでないかと考えるのですが、いかがなものでしょうか。

生田 いろんな高校生がいますが、今、どこに就職するかというと、サラリーマンになるしかないという、非常に選択肢が狭くなつてゐる。たとえば、農業をやりたい子はいるかもしれないし、漁業をやりたい子がいるかもしれない。しかし、今は、農業をやつても漁業をやつても、お金にならない状況になつてゐる。自分たちで仕事を作つて、自分たちでや

りたいことをやるというような人がもつと多くいてもいいと思うのですが、そうになっていない。実は、今、日本は自分たちで仕事を起す起業が非常に少なく、昔からの企業はいっぱいありますが、企業自身が少子高齢化になっている。資本主義社会としてもまずいのではないかと思います。

調べてみたのですが、若い人になぜ起業しないかと尋ねると、「失敗したときに生活できるかどうか不安だ」という。それが大方らしいです。さつきも言いましたが、日本はセーフティネットがほとんど機能していないので、失敗したら生活できなくなるという恐怖が他の国よりはるかに強い。そういう意味でも、多様な選択肢を用意して、なおかつ、失敗しても社会がしっかりバックアップして、再出発できるという柔軟性のある社会を作らないと、日本社会自身の活力がなくなってくると思います。

起業、自分でチャレンジ可能な社会を

今、言われたことは確かによく分かるので、社会全体でセーフティネットを作って、みんながもつと頑張っていることにチャレンジできる社会にしていくこと。もつといろんな選択肢を作って、そこに向かって進んでいけるようにすること、そんなことが重要だと思います。

実例なんですけれど、今、僕は「フリーターズフリー」という雑誌を作っています。これは、4人でやっている有限責任自由組合という会社

なんです。僕ら自身が起業してやっています。最初は、フリーター問題について、原稿を書いてどっかの出版社に発行してもらおうかという話をしていたのですが、そうすると従来の出版社に頼ることになるので、それでは自分たちの言っていることと、やっていることが違うことになるよね、ということ、最終的には自分たちで会社を作ってこの雑誌を発行しました。具体的には、一人ひとりが30万出資して、原稿依頼も、原稿書くのも、テープ起こしも、編集も会計も、全て自分たちでやっているのです。

これは本屋でも売っています。出版・流通の問題があつて、我々が直接これを本屋に持つていくことは出来ないのです。本屋に流すには、出版社から取次店へ、そして本屋へと、流通を通さなければいけません。そうしないと、全国の本屋に流れないのです。ところが、そうやって流すと、途中でお金を取られる。これは1冊1500円なんです、みなさんが本屋で買うと、どれくらい僕らのところに入つて来るかと言うと、全部自分たちで作っているのだからほとんど全部入ってくるのかなと思うと、そうではなくて、1500円のうち、450円なんです。流しているだけの、出版と取次ぎと本屋でほとんど取られてしまうのです。フリーターが働いても途中でピンハネされて取られてしまう構造を思い出させてしまいます。もしここで買っていたと、1500円丸々入ります(笑)。これ、全然違います(笑)。売れないとどうなるかと言うと、僕ら自身が赤字になる。もし売れると、赤字が解消して次の3号の資金になる。

こんな感じで、自分たちでチャレンジして仕事していますが、こういうのは、今、ほとんどありません。僕ら自身が一つのモデルになって、実際はそんなに儲かっていないのですが、他の人も考えてやって欲しいなというのがあります。いろんなことが出来る世の中になってほしいです。

いす取りゲーム、競争

早川 非常に抽象的で、実際はどうすればいいのかわかりませんが、さっきのいす取りゲームですが、いす取りゲームがあるからいすが足りないので、いす取りゲームがなければいいですね。そうしたら、誰もいすに向かつて走ることもなくなるし、あふれる人もいなくなる。ゲームがないのですから。具体的な世の中とは、ずいぶん遠いかもかもしれませんが、そういうことはないのですか。

生田 いす取りゲームは就職だけでなく、受験についてもいえませぬ。受験が一番いい例ですが、受験については、当然、いす取りゲームをなくすことは出来ませぬ。大学について言うと、欧米系のドイツの大学では入るときは簡単なので、競争しなくても入れる。その代わり勉強しないと卒業できない。それは、いす取りゲームでなくて、個々人が頑張るかどうかで評価される。そっちのほうが、絶対いいと思います。

就職についても、全てのの人に仕事や生活を保障して、ちゃんと頑張った人にお金を出すという方向にすれば、もうちよつとましなのでないか。具体的には、オランダのワークシェアリングがいいと思っています。

す取りゲームがない社会は十分可能かと思えます。

子供にこういう話をする、必ず反応が来ます。「競争を否定すると人間は努力しなくなる、あなたの言っていることは間違いです」と。そういう生徒は結構いるのです。一理はあるかもしれないけれど、僕は競争を全部否定しているわけではなくて、いすが取れないと野宿になるような社会はおかしいと言っているのです。最小限度の生活はみんな保障しようと。その上で競争があってもいいのだけれど、いすが取れないと野宿になるような社会はおかしいと思います。

貧乏になったからといって死ぬことがない様に

参加者B さきほど話しのあった、「お上のお世話にはなりたくない」という人がいるという。子供の頃のことを言うと、秘密基地を作ったり、自分で作った掘つ立て小屋のようなどころにいると楽しかった。野宿というのは、それに近いような。人間、家庭を持って役を持って、ちよつと間違えると間違いだと言われ、非難され、批判され、正しいことをしましょうなどと言われ、面白くない一面がありますね。子供のころ野原で遊んだような、そんなものを人間は持っているように思う。

北欧で社会福祉制度が進歩した頃、その地域の自殺率が世界でトップのほうになったことがあった。経済的に恵まれると自殺が減るといってなくて、社会福祉が行き届けば人間は幸せになるのではなくて。命に対して絶対的なものがあるのですね、裕福かどうかということでは

くて、人間のふるさとのようなところ。秩序や制度でがんじがらめになつてというようなことでは、どうも面白くないと。現代社会が衛生的で無菌状態になつたようなものですね。

生田 自殺の話が出ましたが、今は、スエーデンとか、北欧では、自殺率は高くはないと思いますね。日本のほうが高いと思います。失業率と自殺率の図が配布した資料に載っていますが、「死亡自殺率と完全失業率の推移」を見てください。日本の特徴は、失業率と自殺率が完全に連動していることです。つまり、失業者が増えると自殺者が増えるという事です。本当に見事に一致しています。北欧の自殺率については、失業者が増えても自殺者は増えない状態です。最低限度の生活を保障しているので、失業したからといって、自殺する人は増えない。言い換えると、日本でもちゃんとセーフティネットを整備していれば、死ななくて済んだ人がいっぱいいたのではないかと思います。

言われたように、無菌状態の社会がいいかと言うと、そうとは思っていません。釜ヶ崎は行ったことがある人は分かると思いますが、入った段階で街がめちゃくちゃ臭うのです。小便くさい臭いとかあって、あつちこつちで裸で寝ているおじさんがいたり、けんかしているおじさんもいるし、なんかむちゃくちゃです。街としては面白いのです。歩いていると話しかけてくるおじさんはいっぱいいるし、普通の街だとありえないことが起こるんです。それが魅力になつていて、はまっちゃう人が多いのです。僕もはまった口なんです。そういう意味では、もしかしたら、世の中全体が安定してしまうと面白しろみなくなるのかな、とも感じな

いでもない。

しかし、面白さよりも人命のほうが最優先ですから、とりあえず生活を保障して、貧乏になつたからといって人が死ぬようなことはない様にしたいです。その上で、なんらかの社会としての面白さというか、共同体を作つていかなければならないとは思っています。みんなが面白いことにチャレンジできる社会を作つていきたいと思っています。

生き延びるための教育

参加者E いす取りゲームのことを言われましたが、いすは自分で作つたらいいじゃないですか。こつこつと足から一本ずつ。私らの学校に行つているときは、伝記を読みなさいとか、苦労した人の本をいっぱい読んで大きくまりました。知識ばかりでなく、知恵をもう少し教えてあげべきでないだろうかと思えます。今、ホームレスの方、路上生活の方、非常に気が弱くなつていますよね。さっきのビデオを見ていて、前向きな声を出す人がいなかったように思います。いす取りゲームに負けたとか、そういう敗北者のな、あるいは、企業に依存するとか、そういう気持ちばかりが、溢れているように思えます。

私らは、恥ずかしながら貧乏でしたから、大学もよう出ませんでした。自分がいすを作つて座りたいと思ひ頑張つてきました。大学に行つた同級生には、自分は先に世の中に出たのだから、世の中の先輩にならなくちゃ、という気持ちで頑張りましたね。これからの教育も、そう

いう知恵のつくようなことをしていかないとはいけません。私の甥っ子もいす取りゲームに負けて親と一緒に住んでいますが、かわいそうにと思うし、先生の話にあったように、親が亡くなったらどうするんだらうと心配しています。今の若い人を見ると、本人さんの気が弱くなって前向きなところが見えないように思うのですが、なにかもつといい精神的な補助ができないのでしょうか、お金だけでなくて。そんなことを感じました。

生田 ビデオの中で元気がない人が多かったのは確かかも知れませんが、元気に野宿やっている人もいます。元気はつらつとアルミ缶を集めて、おまけに収入の10分の1はボランティアにカンパするような人、僕らのほうが、この人すごいなと思う人がいたりします。そうなんです、普通は時給90円ではそんなに元気出ないです。なので、もうちよつと収入があつて余裕のある生活が出来たら、元気が出ると思うのですが、現実があまりにも厳しいので、落ち込んでいる人が多いのは確かかも知れません。

教育問題について、知恵が必要であるというのは、そう思いますね。今の現状では、国語や算数を教えているだけでは対応していけない社会だと思えます。一つのやり方は生き延びるための教育だと思えます。僕らの近所に西成高校という高等学校がありますが、ここでは、反貧困教育をやっています。ここは普通の府立高校で、さきほど、大阪の高校は輪切りでランク付けされていると言ったのですが、ここは最低レベルの高校です。学力最低の子供たちが来るんだけど、反貧困学習とい

う形で、たとえば、労働法の問題とか、シングルマザーの問題、それから、野宿の問題、生活保護の問題などを生徒に伝えていきます。

なぜかという、労働法を知らずに、アルバイトしたり、就職したりして、何も知らないで仕事をしていると、不当な解雇にあつて泣き寝入りしている子供たちが多いのです。そこで最低限の知識を教えていこうと始めた。つまり、交通法規を学ばずに自動車を運転するわけには行かないように、労働法とか最低限のことを学んで社会に出て行こうという趣旨です。

西成高校の場合は、学校に行っている間、バイトしている子がたくさんいるのですが、一人の女の子が歯医者でバイトしていて、いきなりは医者から「明日から来なくていい」と言われた。先生に、「これ、先生に習った労働法に違反しているのですか」と聞いたら、先生は、「そうや、君は自分で労働監督署に行つて、相談してみな」と言った。その子は歯医者に文句を言い、労働監督署に連絡して、確かにそれは違法であるといわれ、最終的に内容証明付きで、「あなたのやっていることはおかしいですよ。もし本当に首を切るようなら、事前通告に当たるよ。うなお金を出しなさい」。

先生はバックアップするのですが、最終的には賠償金を取りました。先生はそれを応援して、そして、それを教材にして、他のクラスでこういう事例があつたと教える。こんな感じで、生きた教材を使つて授業をやっている。こんなやり方も一つの方法でないかなと思います。勿論、反貧困だけの教育だけでなく、いろんなやり方はあると思います。そ

れこそ、農業のことをやっつけていく高校があつてもいいし、漁業のことをやっつけていく高校があつてもいいし、今の学校教育は完全に画一化させられているので、もっと違う学校があつてもいいと思います。

野宿者襲撃と警察・マスコミの対応

早川 襲撃する子供の話ですが、警察は何をしているのですか。あんな無茶なことが起こっているのに、民間のボランティアの人が隠れていて捕まえるとか、そういう話がありました。そんなレベルの話でない様に思うのです。警察が非常に怠慢でないかと非常に感じたのですが。

生田 警察も怠慢ですけれど、マスコミも怠慢です。襲撃の話のときにガソリンをぶつ掛けて火をつける話をしましたが、ちっちゃな記事でした。この事件は一口で言う、「無差別の殺人事件が連続で起こりました。ガソリンをかけて火をつけるという事件で、犯人は逃走中です」。普通であれば、こういう事件が起こると日本中がひっくり返るような大報道がなされます。

たとえば、「京都市で子供が襲われました。子供にガソリンをぶつ掛けて火をつけるといふ事件で、一人の子供は瀕死の重傷、他の子供も重症を負って、犯人は逃走しています」という事件が起これば、当然、連日トップニュースとなりますね。だけでも、我々がかかわった事件はそうでなかった。何でこのような扱いになるのかと考えると、結局、やられたのは野宿者だという点以外、全く思いつけません。何で扱いが

こんなに違うのか、さっぱり分からない。マスコミの、野宿や貧困に対する注目度があまりにも低い。

あと、警察なんですけれど、警察もいまちやる気がないのは確か、野宿やっつけている人が襲撃されて警察に訴えに行くと、半分ぐらいしか対応しないらしいです。半分ぐらいはどうなるかということ、「そんなところで寝ているお前が悪いのだ」と。

公有地で野宿すること

参加者F 店の前で寝ている野宿は、合法なんですか。

生田 えっと、これは難しいところなんですけれど、警官が言うのはそれなんです、公園で寝ているのは違法なんだよと。だからあんたが悪い、というわけです。みんなの土地に寝るのはよくないことだと。世の中、みんなの土地である公有地と、それ以外は私有地、それしかないじゃないですか。公有地がみんなの土地だから、寝てはいけませんよと言ったら、今度私有地に行くしかならないです。私有地に行ったらどうなるかと言うと、不法侵入で訴えられるのです。どこに行けばいいのかという話になる。野宿者が公園とかに寝るのは違法だからどっかに行けというのは、野宿者は消えてなくなれと言っているのと同じなんです。

たとえば、阪神淡路大震災のときには、地震で家を失った人たちは、公園とか学校で仮設住宅を造って寝ていました。そのときに、学校とか公園はみんなの場所だ、なんであいつらはみんなの場所で勝手に寝てい

るのか、などは誰も言わなかった。つまり、みんなの土地というのは、みんなの中でも今特に困っている人たちのために使えばいいのじゃないか、という考え方もあると思います。これは、別に、野宿者は公園とか学校で寝るのが一番いいというのでなくて、道などで寝ているのは、被災者で緊急避難のために寝ているのと同じということなんです。残念ながら、社会的支援が少ないので、緊急避難が何年も延々と続いている状態だと思うのです。

さっきの警察の話に戻すと、「そんなところで寝ているお前が悪いのだ」となるのですが、そういう意味では、警察は困ったものだと思います。ただ、襲撃については、警察を弁護するわけではありませんが、捕まえるのは確かに難しいですね。たとえば、ガソリンをぶっ掛けて火をつけて逃げれば、目撃者がいなければ捕まえようがないです。証拠が何も残らないです。それもあると思いますが、本当にやられっぱなしの人が多いのも確かだと思います。殺人になると警察も本気を出して捕まえることもあるのですが、怪我程度では警察は動いてくれない。

自立支援政策

参加者D 都会に行けばいくほど、少子高齢化が顕著になると思うのですが、このごろ、空いている高校や中学校や小学校が沢山あると思います。行政が動いて、そういうところにホームレスを収容して、就業のための訓練をするとか、そういうプランはないのですか。

生田 行政が言っている中で一番大きなものは、自立支援政策というのがある。野宿をやっている人が最大限半年そこで生活して、ハローワークで仕事を探すというのがあります。これはこれでいいのかもしれませんが、ただ問題は、二段ベッドの集団部屋なんです。僕でも、そこに半年住んで仕事を探せといわれたら、勘弁してくれと言うところです。修学旅行が半年続くようなものですから。人によっては野宿するよりいいじゃないかという人がいるかもしれませんが、それくらいなら生活保護を取ってアパートに入って、ゆつくり仕事を探したほうがいいんじゃないかと思うのです。つまり、一般の生活困窮者に対して、二段ベッドの集団生活を紹介したら、怒るのではないかと思います。何でそんなところに入れられるのかと。学校にはいっぱい空いているところはあります。これについては、子供の遊び場に使って欲しいなと、個人的には思います。子供だけの遊び場が、今大阪では、どんどん減ってきていて、特に違う年齢の子供たちが一緒に遊ぶ場がほとんどないので、休みの日などは、そんなところを使ったほうがいいのではないかと思います。

早川 あと話は尽きないと思いますが、時間が来ましたのでこの辺で終了したいと思います。拍手で感謝の意を表したいと思います(拍手)。

資料

一・参加者（31名）

池尾俊明、岩本旭人、大總慶一、岡カネ子、門野君子、門野孝子、
門野幸己、岸川健太郎、治部ひろみ、嶋田甚一郎、知見明子、
田歌昇、坪内彰、坪内歩、永井元、永井菜月、永井竜哉、永井徹、
永井ふじ美、永井日菜、中谷純子、中野英二、中谷真一、
橋田国夫、早川真理子、福本千枝子、福本人司、森本小夜美、
弥永雅代、山本幸子

二・発言者

A（60代、男性）、B（70代、男性）、C（30代、女性）、
D（60代、男性）、E（60代、女性）、F（50代、男性）